



創造的復興で一歩ずつ歩み進める

東日本大震災から5年が経過しました。県民の皆様それぞれが様々な思いで3月11日を迎えられたことと思います。生活の再建に向け、これまで懸命に努力を積み重ねてこられた被災者の方々をはじめ、関係者の皆様にあたたかい敬意を表しますとともに、国内外の皆様からの温かいご支援に対し、心より感謝申し上げます。

宮城県知事 村井 嘉浩さん



復興に区切りなし、これからも寄り添う

5年という歳月は短いようで、実はとても長い。もったい無かったのではと、ちょっとした後悔もあります。復興に区切りなんてものはありません。被災地に暮らす人間として、これからも真実を知って、真実を伝え、危惧される風化を避け、ふるさとの再生のために、皆様と寄り添うことができたらと思っています。

一般社団法人みやぎびっきの会 さとう宗幸さん



全力プレーで復興支援につける

震災から5年の節目を迎え、民間の支援活動に縮小の動きが強まっていますが、ベガルタ仙台は被災地のクラブとして復興支援を今後も長期にわたって継続していくため、2月に復興支援室をつくりました。もちろん、最大の支援はチームが活躍することです。節目の年にタイトルを獲って被災地の皆さんと共に喜びを分かち合えるよう、全力を尽くします。

ベガルタ仙台代表取締役社長 西川喜久さん

あの日から5年

復興へ。

5年間の歩みと未来へつなぐ想い

東日本大震災の発生から今日で丸5年。一歩ずつではありますが着実に歩んできた復興への道でした。それでも地域によっては未だ復興というには程遠い現実を目の当たりにし、ただただ時の流れは早いものと感じることもあるかもしれません。5年という歳月の中で積み上げてきたことをこれから先の5年、その先の未来へとつなぐために、今この瞬間の復興への想いを読者の皆さまと共有し、また今日から一歩ずつ歩んでいきましょう。



2011.3.11~ 復旧期ということばかり、がれきの処理、公共インフラや仮設住宅など「日常生活」というものを少しずつ取り戻し始めた1年目。ベガルタ仙台がJ1リーグ4位と大躍進。



2012.3.11~ 被災した田んぼにも稲が実り、集団移転事業の造成工事の開始、トヨタ自動車東日本設立など、産業にも新たな動きが見え始めた2年目。少しずつ希望の光が見え始める。



2013.3.11~ 各地で復興市場・商店街が盛り上がり、仙台・宮城デザイン・ファッションカンパニーでの賑わいが見え始めた3年目。楽天モバイルが創業以来初のプロ野球日本一に輝く。



2014.3.11~ 再生期がスタート。災害公営住宅の建設が進み、気仙沼の市、石巻魚市場一部利用開始など沿岸部にも明るい兆しが見え始めた4年目。7月には天皇皇后両陛下が気仙沼市ご訪問。



2015.3.11~ 女川や荒井で復興まちづくりが行われ、JR仙石線全線運行を開始。仙台市営地下鉄東西線開業など、未来へのインフラ整備が進んだ5年目。国連防災会議が開催され世界の防災を考える視点に。



2016.3.11~ 東北医科薬科大学の医学部新設、仙台空港の民営化など、未来への新たな一歩が刻まれる6年目。商用水素ステーション整備など全国に先駆けた今後の未来都市づくりが期待される。



国際的な防災都市を目指して

3.11から我々は大変に辛い経験と体験をしましたが、同時に沢山のことを学びました。祖先が残してくれた防災文化も取り入れながら復興まちづくりの中で生かす防災都市・地域を再構築しましょう。そして、この教訓と復興の姿を世界的にも発信し、自然災害の増加と気候変動で苦しんでいる国際社会に貢献していきましょう。

東北大学災害科学国際研究所 所長 今村 文彦さん



力強く生きる、子供たちの未来へ

震災から数日後のこと、職業柄亡くなった方々の弔いをさせていた中で両親を失った子供たちの姿を目の当たりにしました。この先どうやって彼らは生きていくのだろうか？そう思った時から、彼らの支援を心に決め、立ちあげたのが特定非営利法人JETOみやぎです。震災孤児となった子供たちは、この震災で大きな苦難を与えられました。たくさんの方の支援を受けても決して平時を取り戻すことはできません。それでもこうした大きな苦難と多くの支援を経験したことは、必ずこれからの人生に役立つものと思います。この5年間で支援してきた子供たちのうち22名が成人となりました。支援していただいた方々に対して感謝できる素直な心、困った人がいれはやくに行動できる心、この5年間で養われた豊かな心を、これからの人生に活かして力強く生きていってほしいと思います。私たちの宮城県もまた世界から多くのご支援をいただきました。その感謝の心を胸により強い町になっていくために、この町を愛し、子供たちの心を育み、世界にこの宮城を発信していきたいと思ひます。これからも変わらぬご支援を、お願い申し上げます。

認定特定非営利活動法人JETOみやぎ理事長 菅原 裕典さん



美しい宮城の風景を農業復興で守る

JAグループ宮城では「がんばろう宮城の復興は農業から」を合言葉に営農再開や地域の再生に向け懸命に取り組みでまいりました。復興は着実に進んできておりますが、特に沿岸部では復興は未だ途半ばです。我々は全国の皆様からの支援を忘れることなく、今後とも「復興から飛躍へ」を掲げ、「力強い農業と豊かな地域づくり」に邁進してまいります。

宮城県農業協同組合中央会 会長 石川 壽一さん

3.11東日本大震災 JETOみやぎ logo and text about disaster relief activities.

ご協賛各社

本企画の協賛金の一部をJETOみやぎ 震災孤児の「生命の物語」支援に寄付いたします。

Table of sponsors including emarché, JAグループ宮城, AEON, 秋保グランドホテル, ALBION, 株式会社エービーテック, Paradiso, IDC OTSUKA, 大場印刷株式会社, オンノヤ, 学研教室, かんぽ生命, COCOMI care, コジマ, CORONA, 佐川印刷株式会社, SADA, 清月記, SEKISUI HOUSE, 積水ハウス株式会社, 石油連盟, Re QUEST, 積和建設東北, MAST積和不動産東北, 高勝の家, TIKYU, 東海住宅株式会社, TOKYO interior, 東和総合住宅株式会社, トヨタコロ-ラ宮城, PROUD, 野村不動産, フジ紙工株式会社, Amusement Design PRO.TERAS, BESS, CREATIVE PARTNER HOKUTO, 瑞鳳, 三井不動産レジデンシャル, 民族衣裳文化普及協会.